

ソマリア日の出金環食速報

大 越 治

＝ ★ 未知の国ソマリアへの旅立ち ★ ＝

先に紹介したように、今年の9月11日、アフリカ東岸からインド洋にかけて金環日食が起きました。この日食を陸地で観測できるのは、ソマリア民主共和国の東岸の一部地域に限られていました。（日食情報 1988. №2, 大越） この日食に対し、道家寧氏をリーダーとする11名（うち添乗1名）が遠征を行いましたので、その様子を簡単に紹介しましょう。

ソマリア民主共和国は社会主義路線をとっていて、しかも輸出品目が少ないので、日本とほとんど交流のない国です。東京にソマリア大使館はありますが、日本はソマリアに大使館をおいていません。日本国内ではソマリアに関する情報（特に写真等の映像）はほとんど手に入らず、もちろん旅行社もソマリア旅行を手掛けたことはありません。そのため、準備には困難を極めました。現地に駐在の海外協力事業団および豊田通商の方と連絡がとれ、次第に情報が集まってきました。それによると、市内での写真撮影の禁止をはじめとして、ガソリンの不足、通貨管理のきびしさ、通関の困難など、不安要素がかなりあることがわかってきました。（日食情報 1988 №2. 道家）

そこで、7月末に来日したソマリアの外務大臣・運輸次官などの政府筋に直接働きかけ、我々の目的や要望などを伝えるとともに、万全の機材リストを作製するなどして準備を整え、いよいよ9月6日にロンドン・ナイロビ経由でソマリアに向けて出発しました。片道30時間を越す旅です。

＝ ★ 意外なソマリア ★ ＝

ナイロビを飛び立った、ソマリ 航空ただ1機のB-707に乗った私たちの眼下に、やがて、空一つ無い赤茶けた砂漠が広がりはじめます。乗務員の目を気にしながら空撮をしますが、何も注意を受けません。首都モガディシュの上空を大きく旋回すると、南欧風の白い美しい町並みが広がって見えます。着陸までに、かなりのコマ数が私たちのカメラに収まりました。

着陸して機外に出ると、日差しが強くて気温が高くても、湿度が低いので快適です。しかしさすがにここではカメラは出せません。空港には運輸次官の秘書官が出向いてくれ、心配していた通関は、フリーパスでOK。さっそく予定の国営ジュバホテルに向かいます。しかし、ジュバは外見とは裏腹にかなりの荒れようです。聞けば、宿泊客がいないので開店休業状態なのだそうです。とにかくここからは海が見えるので、リハーサルのために1泊して、翌日からは民営のグレッドホテルに移りました。こちらは小さいながら活気があり、快適に過ごすことができました。

ソマリアの食事はかなりひどい、と聞いていたのですが、ホテルではイタリア料理を中心に（ソマリア南部はもとイタリア保護領）なかなかおいしく食べられました。一般に物価は非常

に安く、(現地の基準では高いのでしょうが)信じられないくらいです。ただ、イスラムのためビールを作っていないので、輸入ビールは日本で買うのと同じくらいします。

＝★すばらしいシーイング★＝

折りしも9月は火星の接近があります。メンバーの一人が持参したセレストロンC8を持ち出し、海外協力事業団の人達やエチオピア大使をはじめ、ホテルの泊り客を相手に大観望会です。普通、風が強いとシーイングが悪いことが多いのですが、ソマリアは違います。風があっても火星の像はビタリと静止していて、20cmとは思えない素晴らしい見え味です。赤道直下ですから、高度の点からも申し分ありません。たっぷりと楽しむことができましたが、素人の人達には土星の方が面白かったようです。

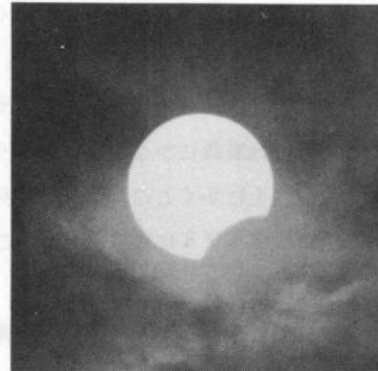
＝★写真に写らなかった金環食★＝

私たちは観測地として、より中心線に近い、モガディシュの南西約80Kmにあるメルカを選びました。メルカの町の南西には、労働組合の保養施設に使われているバンガローがあります。早朝の日食なので、前日の昼、3台のランドクルーザーでホテルを出ました。メルカでは自炊です。

海岸に建つバンガローに落ち着き、観測場所を捜します。道路をはさんで2分ほど歩いた、小高い丘の連なりの上に決めました。バーベキューセットで火を起こしてインスタントの夕食を食べます。食べ終わると満天の星空です。しかし、しばらくすると南から雲が流れてきて、星は全く隠れてしまいました。ソマリアに来て初めての出来事です。夜中の3時過ぎにはスコールになり、早めにセットした人達の機材は濡れてしまいました。この時期、この場所で雨が降るといふのは、きわめて珍しいことだそうです。

雨はやみましたが、夜明けになっても雲は晴れません。日の出の時間になっても、角のような太陽は顔を見せませんでした。金環も、わずかに望遠鏡をのぞいでいた人達が、うっすらとしたリングらしいものを目撃したにとどまりました。第3接触が終わり、食分0.5くらいから雲が薄れ、晴れてきたので

観測地の後ろを通る羊飼(日食前日)



残念！の部分食

すが後の祭りです。

その朝は、首都のモガディシュでも雨が降り、結局どこでも金環食を見ることはできなかったのです。

＝ ★ それでも面白かった ★ ＝

日食を見に行き、日食が見れなかったのだから面白いわけがない、というのが普通です。しかし、ロンドンから家に国際電話を入れた時の、私の声は全然がっかりしていなかった、という家内の証言のように、それでも面白かったのです。

それはひとえに、普通ならとても行くことのできないソマリアに、苦勞の末に入国できたこと、全く観光地ではない土地で、現地の人と交流もできたこと、そして、写真撮影禁止の国でありながら、私たちのカメラはしっかりと記録を持ち帰ることができたこと、などがおもな理由です。

＝ ★ 報告書を作ろう ★ ＝

現在、私たちは報告書の制作を進めています。見ることのできなかった日食の報告書ですが、観光ルートのない国にいかにか安全に入国するか、国内でいかに行動するか、何よりもお仕着せでなく、自分達でどのように観測ツアーを組むか、昨年の「ガボン金環皆既日食報告書」に負けないくらいノウハウの詰まったものにしたいと思っていますので、どうぞお楽しみに。

ソマリ大学への望遠鏡贈呈式（これがソマリア唯一の天体望遠鏡となった）



写真は吉村公一氏撮影